

## 『北里大学病院 ICU における肺炎の起因菌の現状について(特にインフルエンザ桿菌に着目して)』

肺炎は一般的に死亡率が高い感染症であり、迅速な診断と治療が必要です。集中治療室に入室する様な患者様は抵抗力も低下しており、さらに危険な状況にさらされることが多いです。近年抗菌薬に対し耐性を示すものが増えてきており、菌種によっては効果がないものもあり抗菌薬の変更などを強いられることもあり治療期間の延長につながります。本研究は当院での検出される菌の耐性化の傾向やその性質を調べることにより、今後のより一層効果的な抗菌治療に活かすことを目的とするものです。今回は昨今特に耐性化が問題となっているインフルエンザ桿菌に着目し研究を行います。

本研究は、当院 ICU で 2014 年 4 月 1 日から 2016 年 12 月 31 日までの期間に肺炎と診断された患者様の喀痰を対象としております。対象症例の過去の診療録から年齢、性別、基礎疾患などを抽出・調査し治療効果や予後を検討しています。本研究により得られた個人情報、匿名化し個人が特定されないデータとして厳重に保管し徹底した管理を行います。本研究は後ろ向きにデータを収集するだけであるため、指針に従い、研究対象者から同意を取得しませんが、診療情報の提供を拒否する機会を保障するためにオプトアウトのポスターを掲示いたします。過去の医学情報の調査ですので患者さんに不都合が生じることがありませんが、診療情報の提供を拒否される方は研究代表者に電話連絡することで調査から除外することが可能です。診療情報の提供を拒否される場合、2017 年 8 月 31 日までに下記研究代表者までご連絡ください。また、本研究への診療情報の提供を拒否された場合でも、それにより不利益が生じることは一切ありません。

(北里大学病院代表：042-778-8111、研究代表者 救命救急・災害医療センター山谷立大(ヤマタツヒロ))